

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 名古屋市立千早小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒460-0007

名古屋市中区新栄一丁目44番36号

E-mail chihaya-e@nagoya-c.ed.jp

Website http://www.chihaya-e.nagoya-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 55 名 女子 59 名 合計 114 名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、これまで継続的な指導目標として「ともに生きようとする」児童の育成を掲げ、その姿の実現を目指して、児童の発達に応じた人権教育を計画的に推進し取り組んできた。ESDを児童の相互理解をより深める実践と捉え、ESDの実践を通して、「ともに生きようとする」気持ちを高め、「相手を思いやり、分かり合う」ことができる児童の育成を目標とした。

具体的には、児童の発達に応じた人権教育を柱に、①児童の相互理解に係わる活動、②福祉に係わる活動を行った。

① 児童の相互理解に係わる活動

2年生「かけがえのない自分」

〔ねらい〕 友達の良いところを探し合ったり伝え合ったりして、自分がかかけがえのない存在だと思ふ気持ちを高める。

〔内容〕 授業導入時にボールや花などが書かれたプレゼントカードを見せ、友達にプレゼントを交換し合うことを伝えた。ただ渡すだけでなく、なぜ選んだかを伝え合うように理由を考えることも確認した。また、全ての友達に渡せるように促した。



活動に入るととても真剣に悩み、理由が考えられない児童もいたが、考えた理由を話してからプレゼントを渡すと、恥ずかしそうにしながらも「ありがとう」とお礼を言ってプレゼントをもらう姿が見られた。相手に対する優しい気持ちが表情に表われ、自然と笑みがこぼれていた。

友達から言葉を添えてプレゼントを渡されることで、相手の気持ちがより伝わりやすくなった。その結果、互いのことを分かり合おうとする気持ちが芽生え、相手のよさに目を向けて、友達の気持ちや考えに関心を向ける姿が見られた。

② 福祉に係わる活動

3・4年生 福祉体験活動

〔ねらい〕 車いすと点字の体験活動を保護者とともにに行い、相手の立場に立って考え、気持ちを想像し、共感しながら相手を思いやる態度を育てる。

〔内容〕 様々な立場の人の気持ちを考えることをねらい、車いすと点字の体験活動を行った。児童は、身近な生活の中にも車いすを利用する人にとって、困ることがたくさんあることに気付く姿が見られた。

点字体験では、実際に点字を打ったり読んだりしただけでなく、点字ボランティアの役割の大切さを知ることができた。

これらの体験を通して、相手の立場に立った働き掛け方をすることが大切であることに気付く児童も見られた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

これまで継続的な指導目標として「ともに生きようとする」児童の育成を掲げ、その姿の実現を目指して、児童の発達段階に応じた人権教育を計画的に推進してきた。今年度も、他と関わりながら活動する中で、児童相互の理解をより深めるため、グループ活動や学び合い活動を取り入れた活動を通して、「相手を思いやり、分かり合う」ことができる児童を育てていく。また次年度に向けて、教科等横断的な学習指導計画の検討、および指導方法の工夫を図っていく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

各学年で行う内容を決めておき、年度当初の活動計画の中に組み込んでいく。前年度の反省をもとにして、児童の実態に合わせた活動の修正を行い、地域の方とも連携して、継続的に活動できるよう取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

本校では、人権教育の一端を保護者に公開するため、毎年、授業参観を行っている。参加した保護者や地域の方からアンケートをとり、今後の活動に生かしている。「相手を思いやり、分かり合う」ことを通した児童の相互理解を深めるような実践を継続して進めていくことが大切である。また、個々の児童に対する指導を充実させるために、教育相談の充実や集団での取り組みの中で互いの思いを認め合うことができる心の礎を地道に築いていく必要がある。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

現在のところ、得られた効果は不明である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

社会福祉協議会 学区連絡協議会 保育園等

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

「相手を思いやり、分かり合う」ことを通した児童の相互理解を深めるような実践を進めていくには、外部人材の活用がとても重要である。学校と地域および関係団体等と連携し、協力していく体制が築けていることは、学校として大変有り難い。

(3) 平成 30 年度の活動計画

「ともに生きようとする」気持ちを高めていくために、E S Dを児童の相互理解をより深める実践と捉え、今年度は、児童が「相手を思いやり、分かり合う」ことができることに着目して実践を進めてきた。グループ活動や学び合い活動を通して、友だちと協力して話し合ったり活動したりすることにより、相手の立場を考え、分かり合おうとする態度が見られた。今後も、「ともに生きようとする」ことを通した児童の相互理解を深めるような実践を進めていく。